

2004北東アジア経済会議/北東アジア経済フォーラムイン新潟 宣言文

2004年2月3日・新潟

2004年2月2日・3日、日本国新潟のコンベンションセンター「朱鷺メッセ」において、「2004北東アジア経済会議/北東アジア経済フォーラムイン新潟」が開催された。新潟で開催される北東アジア経済会議は今回が14回目であった。北東アジア経済フォーラムは12回目の開催であり、新潟での開催は1995年に次いで2回目であった。会合には、日本、中国、モンゴル、韓国、ロシア、米国などから約580名が参加した。

グローバリゼーションが進展する中、局所的な事件が世界中に大きな影響を与えるケースが増加している。今回の会合に集まったのは、北東アジア地域の中に暮らす隣人同士が協力することに価値を認め、機能的な協力の進展のために行動を続ける人々であった。参加者は、北東アジアでの地域的な取組が域外へも影響を与え、世界を変えていく潜在力を持っていることも認識している。

この地域の現実の動きとしては、ASEAN+3における日中韓3国の首脳会談が定着したこと、自由貿易協定(FTA)締結に向けての動きが活発化していること、ロシアからのエネルギー資源輸送パイプライン建設構想が真剣に検討されていることなどが指摘できる。こうした状況下、今回の会合では、北東アジア地域の経済協力を進める上でのさまざまな課題の解決を目指し、北東アジアグランドデザイン、運輸・物流、環境、エネルギーなど個別分野ごとの議論が行われた。

基調講演を行った宋健氏は、中国の経済成長の過程で、日本やロシア、韓国など隣国との良好な経済関係を指摘しつつ、開放政策の重要性を強調した。その上で、21世紀の北東アジアにおいては、お互いにより隣人、よいパートナーとなることで、地域の人々が平和と幸福と繁栄を勝ち取ることができると結んだ。

北東アジアグランドデザインパネルでは、地域の協同発展のためにはグランドデザインの策定が必要であることが共通の認識となった。その上で、北東アジア地域におけるインフラ整備に必要な資金を調達するために「北東アジア開発銀行」を早期に設立すべきであり、そのために具体的な議論を深めるべきであるという意見が出された。他方、この構想の関連では、様々な課題や多様なオプションがあって、それらの解決が必要であるとの指摘もあった。運輸・物流パネルでは、既に提案されている「北東アジア輸送回廊ビジョン」の具現化のため、その中の「図們江輸送回廊」を取り上げて、さまざまな活動を行っていく方針が

確認された。環境専門家会合では、経済発展と環境保全の両立を図るための国際連携を模索する中で、地球温暖化防止に向けた京都メカニズムの活用策に焦点を絞って議論を行った。エネルギーパネルでは、「アジアエネルギー共同体」の形成を目指す観点から、エネルギー分野の規制緩和や環境にやさしいエネルギー利用、北東アジアガスパイプラインについて議論を行った。これらの各分野の議論の中には、多くの貴重な提言が含まれていた。(主要な提案については、添付資料参照。)

複数の関連行事が開催されたことで、会議本体を含めた一連の行事は全体としてより実り多いものとなった。「Niigata Energy Forum 2004」では、北東アジアのエネルギー安全保障と持続可能な発展について、専門家による議論が深められ、その内容は会合本体のエネルギーパネルにも大きく貢献した。また、「ビジネス交流機会の提供」という北東アジア経済会議が掲げてきた目的に照らして、今回初めて開催された「北東アジアビジネスメッセ」は大きな意義をもっていた。同様に、多国間会合の中であえて個別の国・地域の問題を取り上げて議論した「中国投資誘致フォーラム」及び「地域別貿易投資セミナー」は、小さくてもよいので地域に根付いた具体的な成功例を積み上げていこうというアプローチを体現したものであった。

容赦なく進むグローバリゼーションとリージョナリゼーションの中で、長期的に見て地域の経済統合が進むことは間違いない。しかしながら、北東アジアにおける経済協力と経済統合の実現という全ての本会合参加者が共有するビジョンを具現化していく道筋には、まだ多くの障壁や困難があることも確かである。こうした中、これまで我々は物理的結合や機能的連携を強化するために、人的ネットワークを広げ、組織同士の連携を深めてきた。今回、それぞれにネットワークを築いてきた「北東アジア経済会議」と「北東アジア経済フォーラム」が一体となった会合を開催したことは、より幅広い力を結集するという観点から見て大きな意義があった。ここで示されたのは、共通の目標を掲げた複数のグループがそれぞれの個性を持って活動を続けつつ、グループ相互の緩やかな連携を図ることで、相乗効果を生み出していくというモデルである。

以上の認識を踏まえ、「2004北東アジア経済会議/北東アジア経済フォーラムイン新潟」参加者は、今後も重層的にネットワークを拡大し、より効率的な相互協力のあり方を希求しながら、共通の目標の実現に向け、対話を続け、そしてその言葉を具現化していくことを、ここに宣言する。

2004北東アジア経済会議/北東アジア経済フォーラムイン新潟における諸提案

2004年2月3日・北東アジア経済会議組織委員会

【北東アジアグランドデザイン】

今後の北東アジア地域開発を効率的かつ計画的に行うため、北東アジア経済開発のグランドデザインを対象となる国・地域との密接な協力、協同の下で早期に策定し、各国・地域間での調整と実際のプロジェクトへの応用を行う環境を整備していく。

北東アジア経済開発のグランドデザインを実現するために必要な資金需要を満たすために、北東アジア開発銀行構想推進を図る上での課題の克服に注力するとともに、既存の国際開発金融機関や民間資金が利用できる部分については、積極的にその活用を図っていくこと。

【運輸・物流】

北東アジア輸送回廊のうちの1本である図們江輸送回廊の確立に向け、鉄道・道路・港湾間の円滑な輸送システムの実現、日本・韓国との接続など海上航路の充実、人や物の流れを生み出す具体的なプロジェクトの実現を目的に、担当者専門家や実務家などからなるグループを組織し、実務的検討及び関係者間の調整を行う。図們江輸送回廊の例を参考に、各回廊別にその確立に向けて具体的な取り組みやプロジェクトを提案し、それらを積極的に推進していく必要がある。運輸・物流常設分科会はその動きを促進すべきである。

【環境】

各国の環境問題の現状と課題についての情報交換を行うとともに、国際環境協力の可能性を追及するため、各国の研究者や実務家で構成する円卓会議を継続して開催すること。

この円卓会議において、地球温暖化防止に向けたCDM/JIなど京都メカニズムの活用を図るためのキャパシティビルディングの枠組みづくりや、北東アジアにおいて環境産業を振興するためのネットワーク構築の可能性などについて検討すること。

【エネルギー】

「アジアエネルギー共同体」の形成を目指すため、関係国の政策立案者、企業関係者及び研究者らの間の対話の頻度と質を高めること。

【中国企業誘致フォーラム】

中国企業誘致フォーラムの関係者は、日本での外資系企業誘致政策の改善が、日中間での均衡ある経済発展に必要不可欠であると考えられる。したがって関係者が、日中両国政府や国会はもとより、地方自治体に対しても、国際的な企業誘致のためのソフトインフラ政策の立案を強く喚起すること。

北東アジア経済会議2002イン新潟における主要な諸提案のレビュー

2004年2月3日・北東アジア経済会議組織委員会

【運輸・物流】

運輸・物流常設分科会は、EC2002で発表した「北東アジア輸送回廊構想」の実現及び欧州輸送回廊をはじめとする各輸送ネットワークと北東アジア輸送回廊との効果的な接続を目指す。そのため、同分科会が、ア) 具体的な個別プロジェクトの実現に向けて、各国・地域の政府関係部門及び国際機関に働きかけ、イ) 国境付近における不連続点モニタリング機能を強化し、その成果をさまざまなメディアを通じて、関係者及び利用者に広く関連情報を公開し、輸送回廊の利用を誘導・促進することを中心とする活動を継続すること。
 > 様々な国際会議の場などにおいて、運輸・物流常設分科会メンバーはUN/ESCAP関係者やTINA (Transport Infrastructure Needs Assessment) 関係者との意見交換を行い、協力体制を強化した。そ

の結果、UN/ESCAPが推進するアジア輸送ネットワークへ北東アジア輸送回廊を組み込むこと、現在、各モードごとに議論されているアジア輸送ネットワークを北東アジア輸送回廊同様、道路・鉄道・港湾を統合したものとするなどが検討されている。

> 組織委員会メンバー及び分科会メンバーは各国・地方政府関係部門及び国際機関に対して、北東アジア輸送回廊ビジョンを説明し、構想実現に向けた協力・支援を求めた。関係者の輸送回廊に対する理解が深まり、意識が高まる中で、図們江輸送回廊における中国とロシアを結ぶ琿春～マハリノ鉄道が正式運営を開始し、またこれまで未接続であったモンゴル～中国間の道路についてもその接続に向け、両国で協議が行われている。

> 東京での「北東アジア輸送回廊シンポジウム

(2003年2月7日)、中国琿春市での「図們江輸送回廊フォーラム(2003年10月21、22日)」などの開催、新聞・雑誌・HPなどを通じた輸送回廊に関する最新情報の発信等、回廊利用の誘導・促進に向けた活動を継続し、輸送関係者、荷主等の北東アジア輸送回廊に対する関心を高めた。

【地域協力】

地域協力専門家会合の関係者は、北東アジアでの持続的かつ安定的社会発展を実現するため、新潟県・黒龍江省間での医療技術協力などにみられる、地域レベルでの社会開発に貢献する国際協力の重要性を訴えること。

- > 提案した「新潟・黒龍江ハルビン医療技術協力事業」「黒龍江省寒冷地舗装技術協力事業」は日本政府に受け入れられ、2002年にJICAの草の根技術協力事業として高い評価で採用された。また国連でも関心を呼び、2003年11月メキシコでのグローバルフォーラムで報告の機会を得た。
- > 現在、両事業とも3年計画でODAより数千万円単位の予算を得て、行政のみならず、専門研究機関、教育機関、NGOなどを実行組織に加え、地域社会全体の協力として実施されており、社会的に大きな影響を与えている。

地域レベルでの国際的な政策連携を強化するため、ERINAと東北3省の社会科学院が、交流協定の締結を通じて、日中間での共同研究を推進すること。

- > 2002年に、ERINAと中国東北3省社会科学院との間で学术交流協定が締結され、研究員の相互派遣や共同研究が実施されている。特に2003年度は、共同研究として外務省より中国企業の誘致政策研究を受託し、中間報告の段階で日本政府・黒龍江省・新潟県

市の高い関心を得、直接政策立案に携わっている。

【開発金融】

北東アジア経済会議組織委員会メンバーなど、北東アジア経済協力の関係者が、北東アジア地域全体の経済発展戦略を示す「北東アジア地域開発のグランドデザイン」に関する研究開発活動を支援するとともに、北東アジア地域の多国間協力による開発計画の策定・実施についての国際世論を喚起すること。また、北東アジアの開発整備の資金調達上の問題解決のために構想された「北東アジア開発銀行」あるいはその他の金融メカニズムの実現に向けて更なる研究・啓発活動に参画・協力すること。

- > 2004北東アジア経済会議/北東アジア経済フォーラムイン新潟において、北東アジアグランドデザインの研究に積極的に取り組んでいるNIRAと共同で「北東アジアグランドデザインパネル」を開催し、グランドデザイン及び開発金融について議論を深めた。また、ERINAは2004~2008年度にわたる中期計画期間中に、同様の趣旨から、北東アジア地域開発ビジョンを策定することを計画している。

【環境】

環境産業の育成などのため、ERINA及びその他の関係研究機関が環境産業に関するネットワーク設立構想の具体化に着手すべく努力すること。

- > 2004北東アジア経済会議/北東アジア経済フォーラムイン新潟においては、幅広い国際環境協力の可能性の中から、テーマを「CDM/JIの活用のための国際協力」の問題に絞って専門家による検討が行われた。これは、特定の課題解決を目的としたネットワークを形成しようとする試みの第一歩である。

2004 Northeast Asia Economic Conference / Northeast Asia Economic Forum in Niigata Declaration

3rd February 2004, Niigata

On 2nd and 3rd February 2004, the 2004 Northeast Asia Economic Conference / Northeast Asia Economic Forum in Niigata was held in the Toki Messe Convention Center, Niigata, Japan. This was the 14th time that the Northeast Asia Economic Conference had been held in Niigata. It was also the 12th time that the Northeast Asia Economic Forum had taken place, having been held in Niigata once before, in 1995. Around 580 participants from such countries as Japan, China, Mongolia, the ROK, Russia and the US attended the meeting.

With the advance of globalization, localized events are increasingly having a significant impact throughout the world. Participants in this meeting appreciate the value of cooperation with and among their neighbors in Northeast Asia and are striving to develop functional economic cooperation in the region. The participants also recognize that regional initiatives in Northeast Asia also have an impact outside the region and have the potential to change the world.

A number of substantive moves have taken place in the region: summits between Japan, China and the ROK within the framework of the ASEAN+3 summit have become firmly established, moves aimed at concluding free trade agreements have intensified and the idea of establishing pipelines for the export of Russia's energy resources is being considered in earnest. It was in this context that discussions concerning a variety of fields, including the Grand Design for Northeast Asia, transport, the environment and energy, took place at the conference, with the aim of making decisions about various issues involved in implementing economic cooperation in Northeast Asia.

In his keynote address, Mr Song Jian emphasized the importance of the open-door policy in China's economic growth, while also pointing out the good economic relationship with neighboring countries, including Japan, Russia and the ROK. He then concluded that, in the Northeast Asia of the 21st century, by becoming good neighbors and partners to each other, the people of the region could achieve peace, happiness and prosperity.

In the panel discussion on the Grand Design for Northeast Asia, participants reached a common recognition that the formulation of a grand design is necessary for the cooperative development of the region. It was stated that a Northeast Asia Development Bank should be established as soon as possible in order to mobilize the capital necessary for infrastructure development in Northeast Asia, so concrete discussions on the subject should be actively promoted. It was also pointed out that various issues and options related to this plan need to be resolved. In the panel discussion on transportation issues, it was affirmed that various activities with a focus on the Tumen River Corridor, which was outlined in the Vision for the Northeast Asia Transportation Corridors presented at the 2002 Northeast Asia Economic Conference, would be undertaken, in order to translate that vision into reality. In the meeting of environment experts, discussions focused on measures for applying the Kyoto Mechanisms for

preventing global warming, given a situation in which international collaboration is being sought in order successfully to combine economic development with environmental conservation. In the panel discussion on energy issues, discussions focused on deregulation in the energy sector, environmentally friendly energy use, and a Northeast Asian gas pipeline, from the perspective of establishing an Asian energy community. The discussions in each field incorporated a great many valuable recommendations. (Please see the attached document for details of the main proposals.)

A number of related events were held in conjunction with the main conference, making it even more productive. In the 2004 Niigata Energy Forum, experts engaged in in-depth discussions of energy security and sustainable development in Northeast Asia, contributing greatly to the panel discussion on energy issues that was held during the main conference. Moreover, in light of the Northeast Asia Economic Conference's stated aim of providing opportunities for business exchange, the Northeast Asia Business Messe, which took place this year for the first time, has been of immense significance. In the same way, although it may seem unfitting for a multilateral conference to focus on individual cases, the problems facing individual countries and regions were discussed in the Investment Promotion Forum: Attracting Chinese Investors and Enterprises to Japan and the Individual Regional Trade and Investment Seminars; these sessions exemplified an approach that can best be described as "accumulating a number of specific examples of success based in the region, no matter how small they may be".

Amid the relentless march of globalization and regionalization, regional economic integration will undoubtedly progress in the long term. However, we can be certain that many obstacles and difficulties still litter the path to realizing the vision that all conference participants share for achieving economic cooperation and integration in Northeast Asia. It is in this context that we have hitherto broadened human networks and deepened collaboration between organizations, in order to strengthen physical integration and functional collaboration. The collaboration of the Northeast Asia Economic Conference and the Northeast Asia Economic Forum, which have both built up their own networks, in holding this meeting jointly has been of immense significance from the perspective of mobilizing a greater range of strengths and resources. What has been demonstrated here is a model in which synergy has been generated through flexible collaboration between multiple groups with a common goal, while these groups also maintain their individuality and continue to conduct their own activities.

Based on the foregoing knowledge, the participants in the 2004 Northeast Asia Economic Conference / Northeast Asia Economic Forum in Niigata hereby declare that they will continue this dialogue and will also translate these words into action in order to achieve common goals, striving to expand networks at multiple levels and identify the form that more effective cooperation should take.

Proposals Made at the 2004 Northeast Asia Economic Conference / Northeast Asia Economic Forum in Niigata

3rd February 2004

Northeast Asia Economic Conference Organizing Committee

<<The Grand Design for Northeast Asia>>

In order to implement development activities in Northeast Asia in a more effective and systematic fashion, the Grand Design for Northeast Asian Economic Development should be formulated as soon as possible, in close collaboration with the countries and regions targeted by the Grand Design; coordination with each country and region should be undertaken and the necessary environment for its application to actual projects be put in place.

In order to meet demand for the finance required for implementing the Grand Design for Northeast Asian Economic Development, we should actively endeavor to use existing, available sources of finance, such as international development finance institutions and the private sector, while also focusing on overcoming problems in promoting the vision for the Northeast Asia Development Bank.

<<Transportation>>

With the aim of establishing one of the Northeast Asia Transportation Corridors, in the form of the Tumen River Transportation Corridor, smoother transport between railways, roads and ports should be realized and sea routes, such as those providing links with Japan and the ROK, should be improved. In addition, in order to implement tangible projects that will generate flows of people and goods, a group of relevant experts and practitioners should be formed; this group should concern itself with practical considerations and coordinate the various parties involved.

With reference to the example of the Tumen River Transportation Corridor, it is necessary to propose specific initiatives and projects aimed at establishing each corridor and actively promote these. The Transportation Subcommittee should promote these moves.

<<The Environment>>

In addition to exchanging opinions on the current status of environmental problems in each country and related issues, successive round-table meetings should be held with the participation of researchers and practitioners from each country, in order to seek possibilities for international environmental cooperation.

These round-table meetings should examine the potential for creating frameworks for capacity-building that will utilize the Kyoto Mechanisms for preventing global warming, such as CDM and JI, as well as discussing the possibilities for building a network aimed at promoting eco-industry in Northeast Asia.

<<Energy>>

With the aim of forming a Northeast Asian energy community, the frequency and quality of dialogue between policy-makers, businesspeople and researchers should be increased.

<<Forum on Attracting Chinese Businesses to Niigata>>

Participants in the forum on attracting Chinese businesses to Niigata believe that improving measures aimed at attracting foreign businesses to Japan is absolutely imperative in order to ensure a good balance of development between Japan and China. Accordingly, participants strongly advocate the formulation of policies dealing with soft infrastructure by local authorities, not to mention the governments and parliaments of both Japan and China, in order to attract international businesses.

Review of the Main Proposals Made at the 2002 Northeast Asia Economic Conference in Niigata

3rd February 2004

Northeast Asia Economic Conference Organizing Committee

<<Transportation>>

The Transportation Subcommittee will work on realizing the Vision for the Northeast Asia Transportation Corridors, which was presented at the 2002 Economic Conference, and aim to achieve an effective link-up between various transport networks, such as the European Transportation Corridor, and the Northeast Asia Transportation Corridors. In order to do this, the Subcommittee will make approaches to international institutions and relevant government departments in each country and region, with the aim of implementing

specific projects; in addition, it will strengthen its ability to monitor discontinuities in border areas and publish the results of these surveys and other related information to users and other interested parties through a variety of media. In doing all this, the Subcommittee will continue its activities aimed at promoting and facilitating use of the transportation corridors.

The members of the Transportation Subcommittee have exchanged opinions with representatives of UN/ESCAP and TINA (Transport Infrastructure Needs Assessment) in a variety of international conferences,

thereby strengthening the cooperative framework. As a result, consideration is being given to incorporating the Northeast Asia Transportation Corridors into the Asian Transport Network being promoted by UN/ESCAP; in addition, UN/ESCAP is discussing the possibility of altering the format of the Asian Transport Network, in which each mode of transport is discussed separately, and shifting to something similar to the Northeast Asia Transportation Corridors, in which roads, railways and ports are integrated with each other.

The members of the Organizing Committee and the Transportation Subcommittee have explained the Vision for the Northeast Asia Transportation Corridors to international institutions and relevant departments in national and regional governments in Northeast Asia, and requested their cooperation and support in translating this vision into reality. With understanding of the transport corridors on the part of interested parties deepening and awareness increasing, the Hunchun - Makhilino railway, which links China and Russia in the Tumen River Transportation Corridor, has officially begun running and discussions are taking place between China and Mongolia regarding the connection of the two countries' railways.

The Subcommittee has continued its activities aimed at promoting and facilitating use of the corridors; these activities include holding the Tokyo Symposium on the Northeast Asia Transportation Corridors (7th February 2003) and the Hunchun Forum on the Tumen River Transportation Corridor (21st & 22nd October 2003), and disseminating up-to-date information about the transportation corridors via newspapers, magazines and the internet. In doing so, it has increased interest in the Northeast Asia Transportation Corridors on the part of consignors and people involved in the transport industry.

<<Regional Cooperation>>

Participants in the meeting of regional cooperation experts asserted the importance of international cooperation that contributes to social development at the regional level, as seen in the cooperation between Niigata Prefecture and Heilongjiang Province in the field of medical technology, in order to achieve sustainable, stable social development in Northeast Asia.

The proposed Niigata-Harbin, Heilongjiang Medical Technology Cooperation Project and Paving Technology Cooperation Project for Cold Areas of Heilongjiang Province were accepted by the Japanese government and received the accolade of being adopted as JICA Grassroots Technological Cooperation Projects in 2002. In addition, the UN showed an interest in these projects and a researcher from ERINA had the opportunity to deliver a report at the UN's Global Forum in Mexico in November 2003.

Both projects are currently receiving tens of millions of yen in ODA funding under a three-year plan; they are being implemented with the involvement of regional society as a whole, as well as such

implementing bodies as specialist research institutions, educational institutions and NGOs, and are having a significant social impact.

In order to strengthen international policy collaboration at the regional level, ERINA and institutes of social sciences in China's three northeastern provinces will promote joint Sino-Japanese research through the conclusion of an academic exchange agreement.

In 2002, an academic exchange agreement was concluded between ERINA and institutes of social sciences in China's three northeastern provinces and this has been put into operation with the dispatch of researchers to partner institutions and the implementation of joint research. In particular, in fiscal 2003, the Ministry of Foreign Affairs commissioned the institutions concerned to conduct research into policies for attracting Chinese companies to Japan; the mid-term report into this research attracted a great deal of interest from the Japanese government, Heilongjiang Province, Niigata Prefecture and Niigata City, and policies are being formulated as a direct result.

<<Development Finance>>

In addition to supporting research and development activities relating to the Grand Design for the Development of Northeast Asia, which presents an economic development strategy for the entire region, those involved in economic cooperation in Northeast Asia, such as the members of the Northeast Asia Economic Conference Organizing Committee, will galvanize international opinion regarding the formulation and implementation of development plans by means of multilateral cooperation in Northeast Asia. Moreover, they will participate in and cooperate with further research and educational activities aimed at the establishment of the Northeast Asia Development Bank, which was envisaged as a means of solving problems in procuring the funding required for development in Northeast Asia, or other financing mechanisms.

At the 2004 Northeast Asia Economic Conference / Northeast Asia Economic Forum, a panel discussion on the Grand Design for Northeast Asia was held in collaboration with NIRA, which is actively tackling research into this subject, and in-depth discussions about the Grand Design and development finance took place. Moreover, in its Mid-Term plan for 2004 - 2008, ERINA plans to formulate the Vision for Northeast Asian Development, for a similar purpose.

<<The Environment>>

In order to nurture eco-industries, ERINA and other related research institutions will strive to begin translating into reality the idea of establishing an eco-industry network.

At the 2004 Northeast Asia Economic Conference / Northeast Asia Economic Forum, out of a broad range of possibilities for international environmental cooperation, experts focused on the issue of international cooperation aimed at the application of CDM/JI. This is the first step in an endeavor to form a network aimed at solving specific issues.